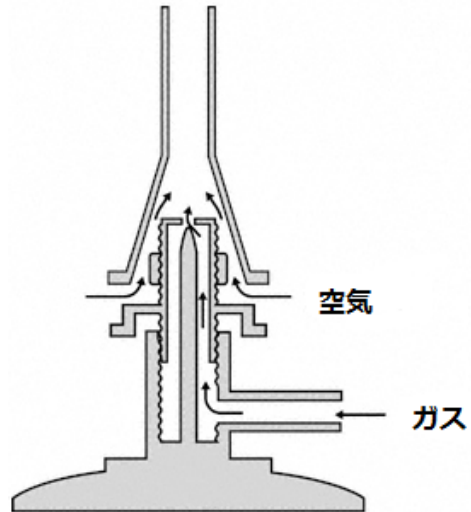
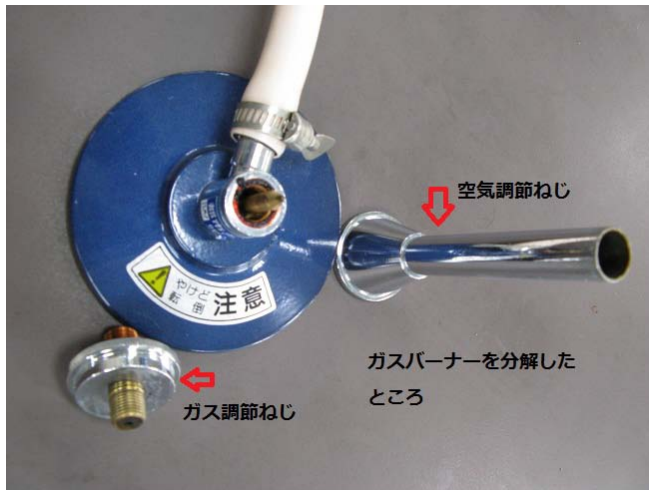


ガスバーナーの使い方

- ガスバーナーの仕組みです。下にガスを調節するねじ、上に空気を調節するねじがあります。

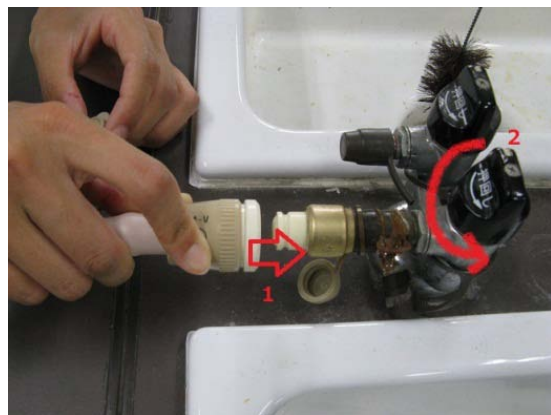
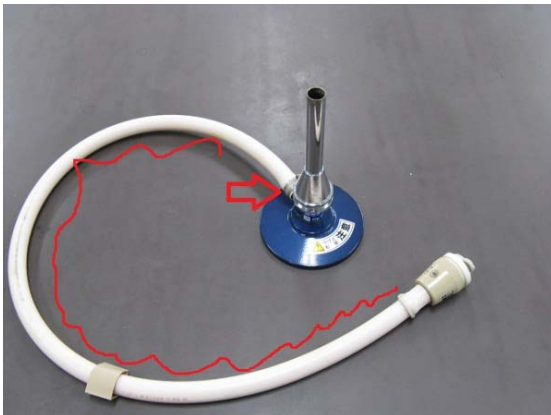


IPA「教育用画像素材集サイト」
<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>の
図を加工

- 分解したガスバーナーにガス調節ねじだけをはめて、火を付けてみました。とても小さな火が付きます。これ以上火を大きくしようとすると、ガスと空気のはげしい流れで、火が消えてしまいます。空気調節ねじで空気の量を調節して、火のいきおいをおだやかにします。



- ガス管はきちんと付けられていますか？ 調節ねじはなめらかに開け閉めできますか？ ガス管はいたんでいませんか？
- ガス管をコックにカチッと差し込み、元せんを開けます。



- 火はななめ下から付けます。最初は空気調節ねじを開けず、ガス調節ねじだけを開けて火を付けます。



酸素不足の炎はオレンジ色で、ゆらゆらと燃えます。

- 少しずつ空気調節ねじを開けていきます。空気とガスの量の割合がちょうど良い火は、青く静かに燃えます。中の明るい部分を内炎、外の色のうすい部分を外炎と言います。外炎の上の部分が、もっとも温度が高いです。
- 空気の量を増やすと、火は短く、ゴーツと音を立てて燃えます。この火はとても温度の高い火です。

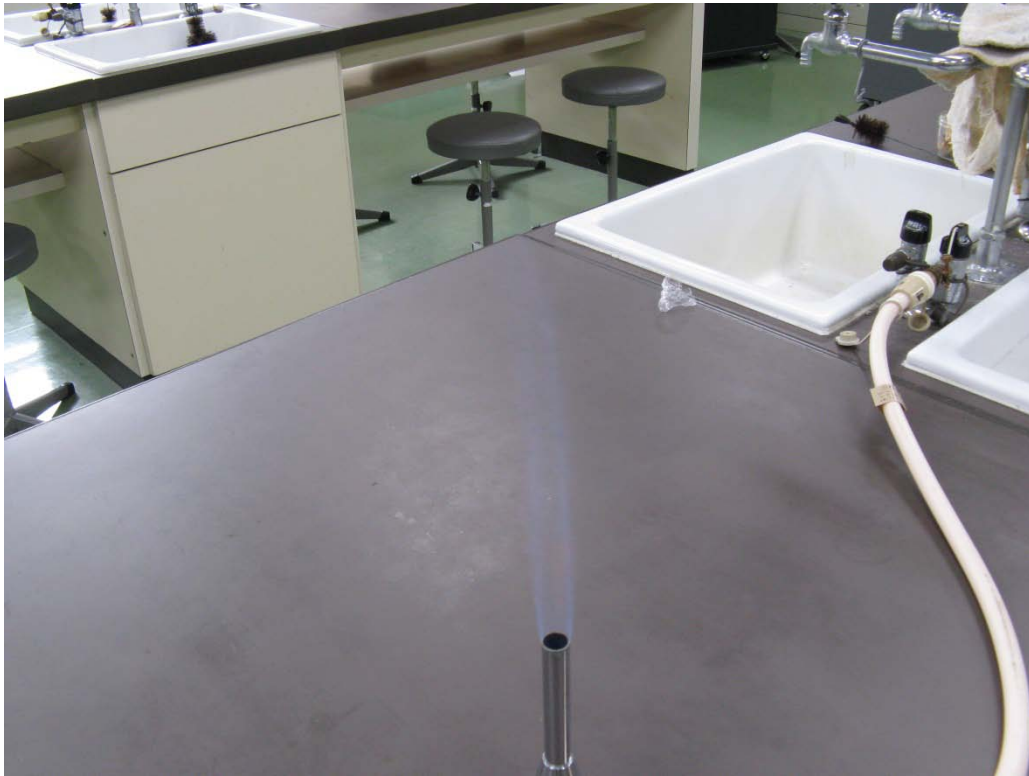


もっと空気を増やすと火は消えてしまいます。ガスと空気の量をねじで調節して、ちょうど良い燃え方の火にしましょう。

- 割りばしをアルミホイルに包んで焼いています。長いものを焼くときは、写真のように、火の中にななめに入れるとうまく焼けますよ。



- してはいけないこと



この写真を見てください。明るい部屋の中では、ガスバーナーの炎の色はとてもうすくて、はっきりと見えないのです。**バーナーの火を上からのぞき込んではいけません。**かみの毛が燃えたり、顔をやけどするおそれがあります。